地域に貢献する四国企業

―第８回 四国でいちばん大切にしたい会社大賞 受賞企業訪問―

四国でいちばん大切にしたい会社大賞とは

▼目的

社員や顧客、企業から必要とされ、「大切にしたい会社」と思われる企業等を発掘・表彰することにより、企業経営の新たな取り組みを後押しし、企業活動の活気づくり、ひいては四国地域の経済活性化に貢献すること。

▼応募資格

四国地域に所在する企業または民間団体とし、過去３年間、以下の「必須条件（1）～（5）」のすべてに該当し、かつ「その他条件（6）～（10）」のいずれかのうち２項目以上に該当していること。

必須条件

（1）遵守すべき法律・規制などのコンプライアンス違反がない
（2）人員整理、会社都合による解雇をしていない（自然災害の場合を除く）
（3）死亡、障害・後遺症が残る等の重大な労働災害がない（自然災害の場合を除く）
（4）下請企業・仕入先企業へのコストダウンを強制していない
（5）黒字経営（経常利益）である（一過性の赤字の場合を除く）

その他条件

（6）仕事と子育て・介護を両立するための就労制度（時間外労働の低減含む）を設けている
（7）高齢者の就労機会を確保している（再雇用制度、定年の延長・廃止 等）
（8）障がい者雇用を実施している（法定雇用率以上を達成または準ずる取組※があること）
※障がい者就労施設からの商品やサービスを利用している等
（9）社員満足度調査を実施したことがある
（10）社会貢献・環境保全活動（寄付・ボランティア、環境配慮商品の取り扱い 等）を実施している

▼お問い合わせ

中小企業基盤整備機構四国本部
香川県高松市サンポート2-1　高松シンボルタワー　タワー棟７階
電話:087-811-3330　FAX:087-811-1753
担当　企画調整課　宮本（みやもと）

中小企業基盤整備機構
四国本部長
吉川 茂樹

中小機構四国本部 現場リポート

今回、28、29日の2日間にわたって取り上げる企業は、いずれも2019年2月に開催された「四国でいちばん大切にしたい会社大賞」の受賞企業。同賞は「四国の企業で、社員や顧客、地域から必要とされ『大切にしたい会社』と思われている企業等」を表彰するもので、四国地域イノベーション創出協議会（事務局・四国産業・技術振興センター、副事務局・産業技術総合研究所四国センター、中小企業基盤整備機構四国本部）が主催し、四国経済産業局など四国の29の関係機関が後援している。人口減少、生産年齢人口減少、少子高齢化という潮流の中、四国の企業はいずれも人手不足であり、人材確保・定着が最大かつ喫緊の課題であるが、そのような中でも、社員と経営理念を共有し、多様な働き方に合わせて社員満足度を高め、また地域との関わりを大事にして、業績を伸ばしている企業もある。そこで、中小機構四国本部が同賞を受賞した3社を訪問。現場リポートとインタビューを通じて事業戦略や社員を大切にする取り組みなどについて紹介してもらった。

業務プロセス見直し利益生む

本日は、中小機構四国本部長賞を受賞した2社をご紹介させていただきます。1社目のヴァンサンカン（松山市）については、出産や育児、介護といったさまざまな家庭事情を抱えながらも柔軟な雇用形態により、従業員が安心して意欲的に働ける取り組みと、それらの取り組みを可能にする従業員のマルチスキル化の実現が評価されました。

2社目の義農味噌（愛媛県松前町）については、閑散期と繁忙期を勘案した計画生産による効率化、従業員のジョブローテーションによる多能工化、東日本大震災や西日本豪雨の被災地への支援活動が評価されました。

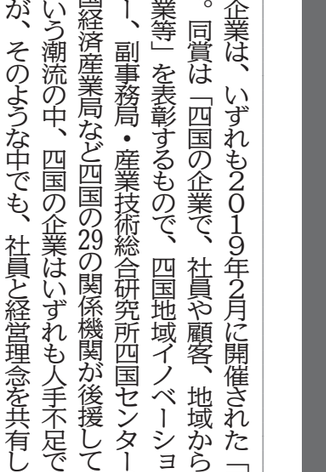
四国経済産業局が2019年7月24日に公表している四国地域経済の動向（19年4月―19年6月期）では、雇用情勢については依然、保できていない状態が続いているという調査結果が出ております。28日から本日にかけてご紹介させていただいた3社については、働くことで、労働力の確保、UJIターンにつないで四国の活性化を図るという面から、重要な意義を持つ事業であると考えております。

今後も、社員や顧客、地域から必要とされ企業を発掘し、四国の発展を支える力となるように取り組んでいきたいと考えております。

現在、四国でいちばん大切にしたい会社大賞にご応募いただける企業の募集を10月15日（火）まで行っています。応募資格を満たす四国地域に所在する企業または民間団体であれば、応募していただくことができます。審査を経て、表彰をさせていただくこととなりますが、このような取り組みをされている企業などがございましたら、ご推薦・ご応募をお願いいたします。

― 中小企業基盤整備機構四国本部長賞 ―　企業訪問インタビュー

ヴァンサンカン　石原 美良子社長



―事業内容を教えてください。

「化粧品販売業としてスタートしたのですが、外見だけではなく肌が触れあうコミュニケーションで人を癒やし、内面から美しくすることを目的として、1989年にエステティックやアロマセラピーを施す美容サロンを開業しました。『心と体とお肌のケア』をテーマに掲げ、トータルライフケアサロンとしてお客さまの生活の質が向上することを目指しています。CMは一切しないので、お客さまのご紹介で来店される方が多く、7―8割がリピーターのお客さまです。中には開業当初から30年以上通われているお客さまもいます。そのほかにアロマ肌が触れあうコミュニケーションで人を癒やし、内面から美しくすることを目的として、1989年にエステティックやアロマセラピーを施す美容サロンを開業しました。『心と体とお肌のケア』をテーマに掲げ、トータルライフケアサロンとしてお客さまの生活の質が向上することを目指しています。CMは一切しないので、お客さまのご紹介で来店される方が多く、7―8割がリピーターのお客さまです。中には開業当初から30年以上通われているお客さまもいます。そのほかにアロマセラピストの認定資格校の運営や、オーガニックコットン商品の販売も行っています」

―従業員は全員女性ですが、長く働いてもらう秘訣はありますか。

「以前は結婚、出産をしてフルタイムで仕事ができなくなったら、勤められないという空気があったのか、離れていった従業員もたくさんいました。従業員も働き続けたかったと思いますし、私も続けてほしかったです。そこで従業員が幸せでいられることは、お客さまに喜んでもらうこと以上に私の幸せだということに気付き、2015年から子育てしながらも働き続けることができる取り組みを始めました」

「まずは雇用形態を正社員、短時間正社員、パート、アルバイトとし、短時間勤務など希望する条件に柔軟に対応できる仕組みにしました。基本的には1年契約ですが、子どもの送迎や介護などさまざまな家庭事情によって勤務できる時間や日数は変わってくるので、その都度相談に乗り、次月から勤務条件を変更することもあります。また日曜日に子どもを預けるところがない場合は、会社負担で契約している託児所に預けることもできます。こうした取り組みを通じて、安心して産休を取得して復職できることから離職率も低減しました」

柔軟な勤務形態で活躍するスタッフ

―スタッフの要望ばかり聞き入れるとシフトを組むことは難しくなりませんか。

「スタッフそれぞれに自分のできる範囲を少しずつ広げることで、1人が抜けたときに代わりができるように仕事内容をシェアしています。できることが増えるので、スタッフの成長にもつながります」

―今後の目標は。

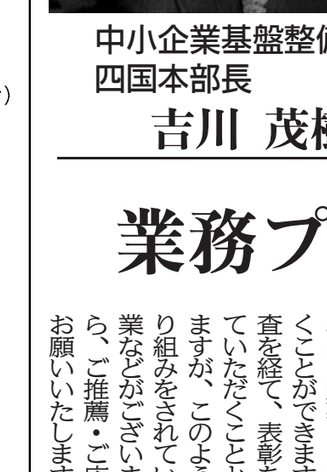
「スタッフは子育て世代が多く、子育てと仕事に一生懸命なので、少しでもサポートしていきたいです。また、よりお客さまに寄り添えるような知識や技術を深めていきたいです」

【会社概要】

▽本社所在地＝松山市、089・934・0025▽資本金＝1000万円▽従業員＝20人▽設立＝1989（平成元）年▽事業内容＝自然療法サロン・オーガニックショップ運営など

子育て・仕事 両立後押し

義農味噌　田中 正志社長



―事業内容を教えてください。

「愛媛県で栽培が盛んな『はだか麦』の配合割合が多い、甘みの強い麦みそを作っており、売り上げの約6割を占めています。そのほかに愛媛県産の鯛を使った鯛めしの素や甘酒なども製造販売しています。また地産地消の取り組みから、愛媛県特産の『いよかん』を使ったドレッシングなどもOEM生産しています」

―愛媛の麦みそ文化を伝承・発展させていくことを経営理念に掲げています。

「自分が創業者の父の元になぜ産まれたのかと自問自答したときに、この土地の食文化を守っていかないといけないと思い、2000年に経営理念としても掲げました。当初は従業員への理解浸透を図るために理念浸透委員会を作り、『愛媛の麦みそとは何か』『麦みそ文化とは何か』といったことを深掘りして理解を深めていきました。その結果、甘い麦みそと『しょいのみ』と呼ばれるもろみを愛媛の麦みそと定義しました。これにより、自信を持って商品をお客さまに提供できるようになり、販売エリアも全国に広がりました」

―生産現場での工夫はありますか。

「我々は小さな会社なので、お互いで代わりができるようにしようとジョブローテーションをしています。商品の製造過程でさまざまな工程がありますが、忙しいときには全員で取りかかれるので、残業はほぼありません。また自動化設備も導入することで余剰人員が発生しますが、そうした際には手のかかる仕事を作って従業員を削減しないようにしています。今までリストラをしたことはありません」

―社会貢献活動に積極的です。

「社名の由来は、近くの義農神社に祀られている義農作兵衛さんという方です。作兵衛さんは、享保の大飢饉の際に自身が飢えていたにもかかわらず、翌年に作付けするための麦種を残して亡くなり、多くの村人を救ったといわれる方で、その『人のために尽くす』という精神が当社の根底にあります。東日本大震災や西日本豪雨災害などの支援活動に参加しました。東日本大震災の被災地には、今でも毎年みそを送っています。また障害者の雇用にも積極的に取り組んでいます。以前は6人働いていましたが結婚などで巣立ち、現在は2人が働いています」

―今後の事業計画は。

「各地のご当地食材やみそを使った即席みそ汁を開発するなどして国内市場の拡大を図るとともに、愛媛のみそ文化を継承・発展させたいです」

【会社概要】

▽本社所在地＝愛媛県松前町、089・984・2135▽資本金＝1000万円▽従業員＝75人▽設立＝1973（昭和48）年▽事業内容＝みそ・甘酒・鯛釜飯の素・ドレッシングの製造・販売

「人に尽くす」精神 根底に

愛媛の麦みそ文化の伝承・発展を支える

2019イノベーション四国顕彰事業
第9回四国でいちばん大切にしたい会社大賞

四国の「いい会社」募集中!

応募締切　令和元年10月15日（火）※消印有効

問い合わせ：中小機構四国本部 企画調整課　TEL 087-811-3330　四国でいちばん　検索